

「カリキュラム・マネジメント」の 充実を目指して



カリキュラム・マネジメントって
どのようにするの？

子供たちの資質・能力を育成する
ために学校全体で同じ目標に
向かって教育活動に取り組むこ
とが重要です。
自分が何をすればよいか一緒に
考えていきましょう。



岡山市教育委員会広報専門官 こらぼん♪

令和2年度「教育課題別研究」のまとめ

目次

はじめに	1
1 「カリキュラム・マネジメント」とは	2
2 管理職とカリキュラム・マネジメント	4
3 教務主任とカリキュラム・マネジメント	5
4 研究主任とカリキュラム・マネジメント	6
5 教員とカリキュラム・マネジメント	8
6 研究協力校の実践 岡山市立芳田小学校の取組	10
7 研究協力校の実践 岡山市立福田中学校の取組	12

主な参考文献

- ・ 小学校・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編（平成29年7月）
- ・ 田村学『「深い学び」を実現するカリキュラム・マネジメント』文溪堂（平成31年3月）
- ・ 田村学「カリキュラム・マネジメント入門」東洋館出版社（平成29年3月）
- ・ 田村知子「実践・カリキュラムマネジメント」ぎょうせい（平成23年7月）
- ・ 広島県教育センター「授業研究ハンドブック 学校における授業研究の質的向上を目指して」（平成26年3月）
- ・ 福岡県教育センター「資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントの“15の方策”」（令和元年）
- ・ 大分県教育委員会「学校全体で組織的に進めるカリキュラム・マネジメント改訂版」（令和2年1月）
- ・ 令和2年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修（NITSオンライン研修）

はじめに

＜これまでの歩み＞

岡山市教育研究研修センターでは、平成24年度から岡山市の教育課題の解決や学力の向上に資する指導方法の研究として、「教育課題別研究」に取り組んでいます。この「教育課題別研究」は、岡山市立小・中学校の研究協力校と連携して、2年間に渡って継続的・実践的に進める研究です。

一期目から二期目は、「思考力・判断力・表現力の育成」と「学ぶ意欲の向上」を目指した授業づくりに向けて子供の実態把握や指導方法の提案を行ってきました。

三期目から四期目は、育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善に向けての提案を行ってきました。



三期（H28，29年度）



四期（H30，R元年度）

＜新たな取組＞

五期目となる令和2・3年度は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とともに学習指導要領改訂の基本方針の一つである「カリキュラム・マネジメント」の充実を目指した研究を以下のようにスタートしました。

＜令和2・3年度 研究の目的＞

学校が、各種調査結果の分析から子供・学校の実態を適切に把握し、教科等横断的な視点や校内外の資源の活用の視点から年間指導計画等の見直しや授業の工夫をすることで、教員の授業力と子供の資質・能力の向上を図る。

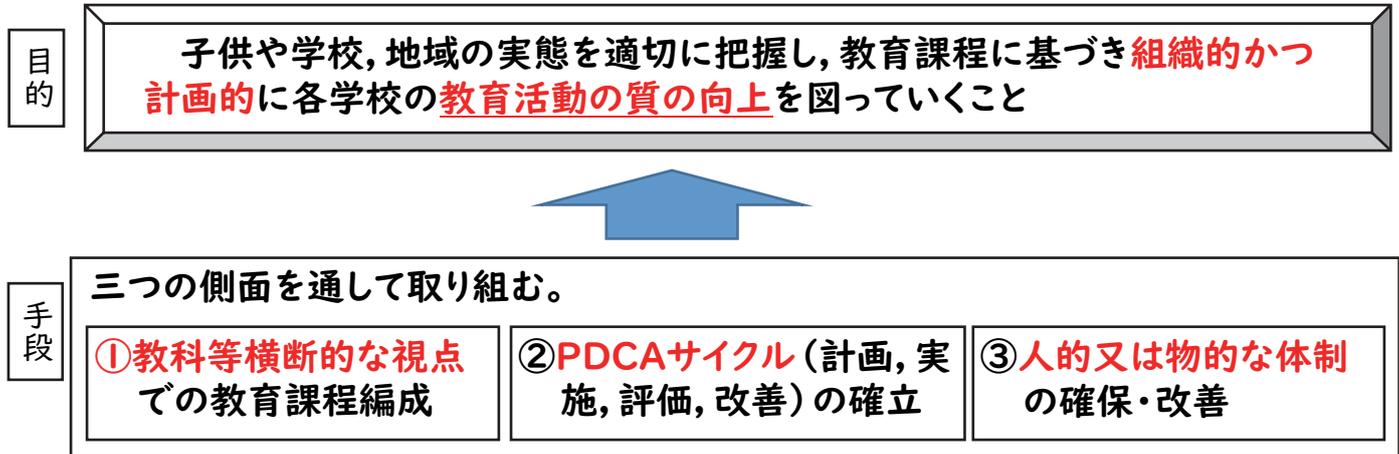
＜研究仮説＞

- ① 教員が、各種調査結果の分析から子供の実態を把握し、目指す子供像を明確化・共有することで、育成したい子供の姿の実現に向けた授業改善ができ、子供が成長を実感するなど授業の満足感が向上するのではないかと。
- ② 教員が、教科等横断的な視点や校内外の資源の活用の視点等から年間指導計画等を工夫することで、子供が資質・能力を習得し、身に付けた資質・能力を活用・発揮することができるように授業改善ができ、子供の資質・能力が向上するのではないかと。

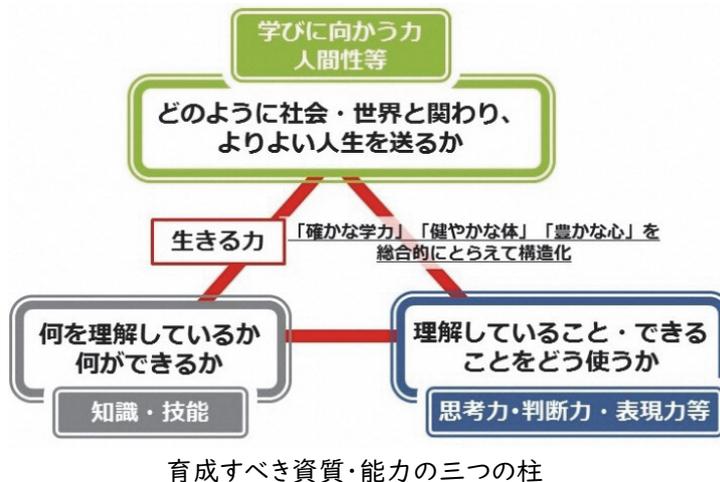
当センターでは、上記の仮説を立て、研究協力校での実践を通してカリキュラム・マネジメントを充実させるための方策を各学校の校内研究に役立てていただけるように本冊子にまとめました。ぜひ、校内での研修等でご活用ください。

1 「カリキュラム・マネジメント」とは

学習指導要領には次のように示されています。



カリキュラム・マネジメントが充実すると、
子供に三つの資質・能力が育成され、知・徳・体にわたる「生きる力」を育むことができます。



つまり、カリキュラム・マネジメントとは、
学校全体で **三つの側面**を通して、教育課程に基づいて教育活動を行い、
子供たちの資質・能力を育成していくこと です。

まずは、**目指す子供像を共有**します。
そして、**三つの側面**を通してカリキュラム・マネジメントに取り組めます。

カリキュラム・マネジメントの三つの側面

①教科等横断的な視点での教育課程編成

各教科等の教育内容を、学校教育目標を踏まえた**教科等横断的な視点**で、内容相互の関連を図りながら、組織的に配列していきます。

子供の生きる力を育成するためには、各教科・領域等で身に付ける資質・能力とともに**教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成**が必要です。

教科等横断的な視点に立った資質・能力とは

○学習の基盤となる資質・能力

- ・ 言語能力
- ・ 情報活用能力
- ・ 問題発見・解決能力 等

○現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

- ・ 健康・安全・食に関する力
- ・ 主権者として求められる力
- ・ 新たな価値を生み出す豊かな創造性 等

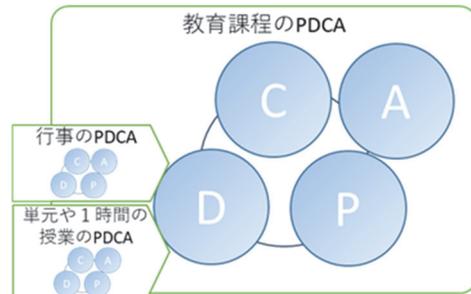
②PDCAサイクル(計画, 実施, 評価, 改善)の確立

学校教育の効果を学校教育目標や目指す子供像に沿って**常に検証して改善**します。

○各種調査結果やデータ等の数値を活用した実態把握からの課題設定や評価の実施

- ・ 全国学力・学習状況調査
- ・ 岡山市学力アセス
- ・ ASSESS
- ・ 教育に関する総合調査 等

○授業や行事でのPDCAを積み重ね、教育課程全体のPDCAを実施



③人的又は物的な体制の確保・改善

教育課程の実施に必要な**人的又は物的な体制を確保**するとともにその改善を図ります。

○人材や予算, 時間, 情報などを教育の内容と効果的に組み合わせる。

- ・ 教員の指導力, 教材・教具の整備状況, 地域の教育資源や学習環境などを具体的に把握し, 教育課程の編成に生かす。

○学校内の運営組織, 学校と地域の連携及び協働を活性化させる。

- ・ 学校運営協議会, 地域学校協働活動等の推進

この三つを通して取り組むためには、学校全体で力を合わせる必要があります。では、「誰が」「何を」「どのように」進めればいいのでしょうか？管理職や教務主任など役職や校務分掌によるカリキュラム・マネジメントの取組方を見てください。



校長は教育課程の責任者



校長がリーダーシップを発揮し、管理職で協力して学校改善を!

① 学校の経営方針を立てる

- 学校教育目標をもとに、学校の経営方針や年度の重点目標を立てる
- 職員会議、校内研修等で方針を共有する
- 学校便り、ホームページ等で家庭や地域に発信し共有する

② 経営方針に基づいて学校を運営する

- 校内組織の整備をする
- 教育活動への指導・助言をする
- 外部との連携を図る

③ 経営方針の改善策を検討する

- 副校長、教頭、教務主任等とともに、分析結果から改善方針を検討する

④ 学校経営の評価・分析をする

- 学校評価書、学校運営協議会等を活用する



ワンポイントアップ

人的体制の確保のための「校内の人材育成」

人的又は物的な体制の確保とは、外部から人材を確保することだけではありません。資源は学校内にもあります。校内の人材育成はカリキュラム・マネジメントの充実に欠かせません。

職員会議の「校長のあいさつ」で、カリキュラム・マネジメントについてのミニ研修を行いました。5分程度の短い時間ですが、定期的に行うことで、教職員の意識が向上しました。

日頃の教育活動に対する教職員への称揚は欠かせません。授業参観後は、必ず校長室で肯定的なフィードバックを中心とした指導・助言をしました。

会議資料は、必ず企画会議前に担当者が管理職等へ提出するようにしました。会議がスムーズに進行するとともに、担当者が目指す子供像を踏まえた提案が計画的にできるようになりました。

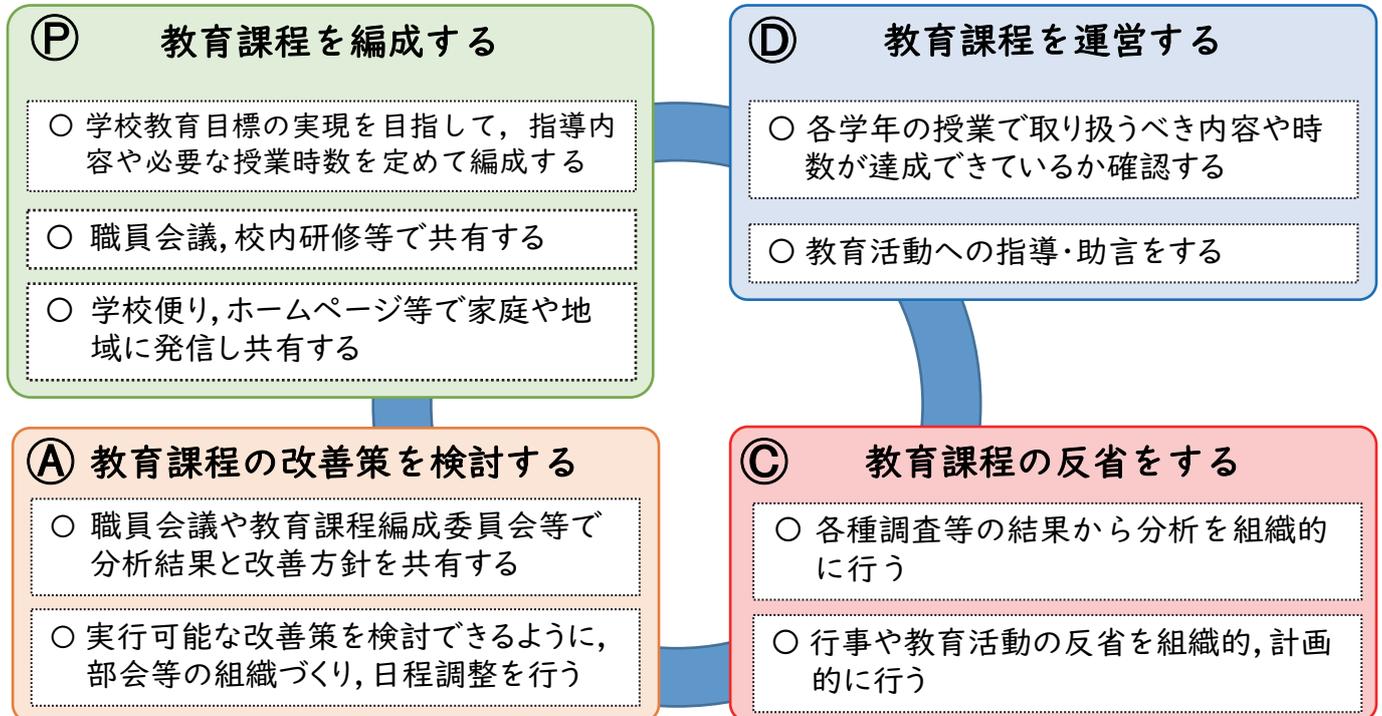


芳田小学校の取組

教務主任は教育課程のマネージャー



教育課程の管理・運営の実務者として、校内での共有と調整を!



ワンポイントアップ

三つの側面を通した「教育課程編成」

編成の際には三つの側面を考慮に入れます。

- ①教科等横断的な視点で組み立てているか。
- ②教育活動の実施状況を評価してその改善を図っているか。
- ③子供、学校、地域の実態に応じたものになっているか。

下記のデータが活用できます。

- ・全国学力・学習状況調査
- ・岡山市学力アセス
- ・教育に関する総合調査
(各校で設問の設定可)
- ・ASSESS
- ・学校評価 等



ワンポイントアップ

PDCAの積み重ねの工夫 ～教育課程の改善策の検討から～

各種調査等のデータをもとに、改善策の検討を行うことで、目指す子供像の共有を図ります。

学力アセスの結果から、各学年の授業で何ができるか具体化してみましょう。

対話から考えを深めることを大切に授業がしたいですね。

目指す子供像が明確になってきました。

低学年の時から筋道を立てて考える力を育てていくことが必要ですね。

やはり、うちの学校の子供たちの目指す姿は…。



教務主任



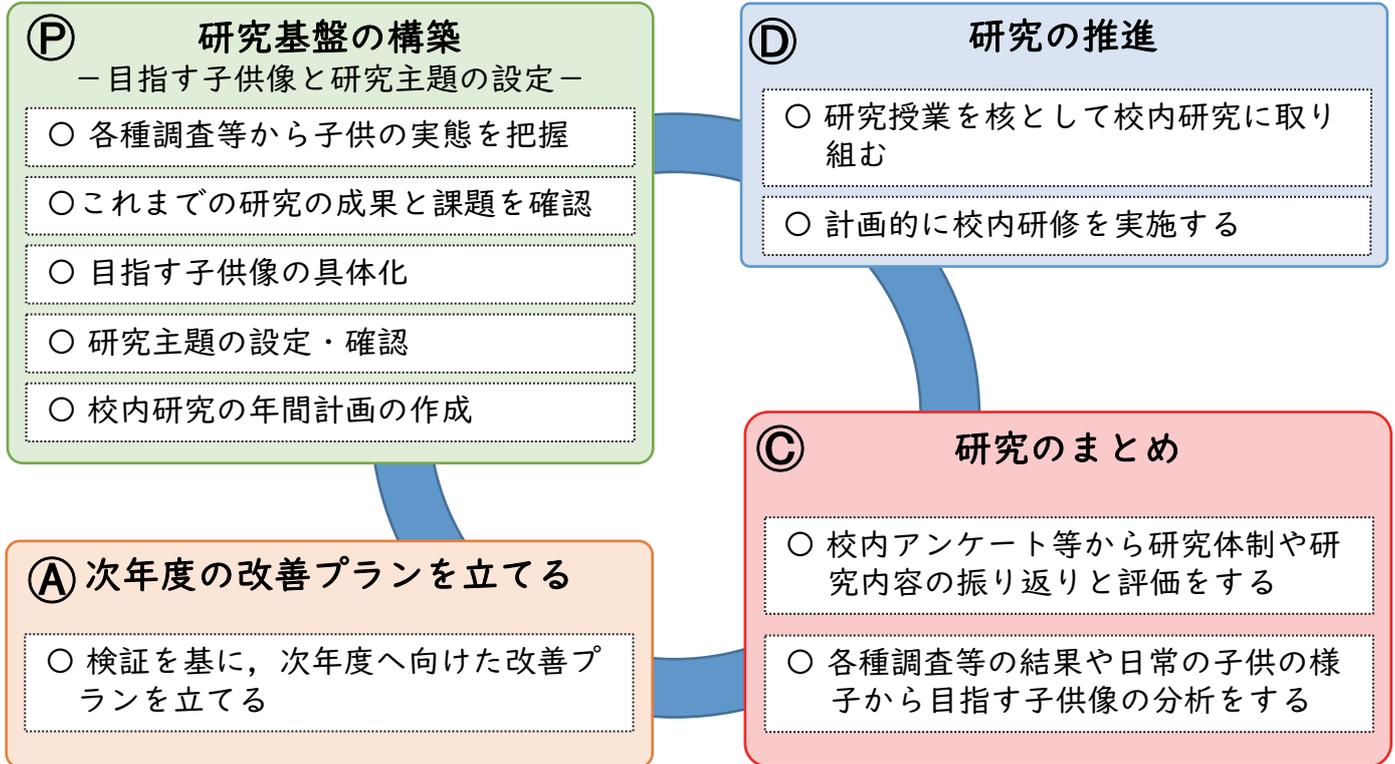
教務主任



コンダクター

研究主任は教育課程の学習における指揮者

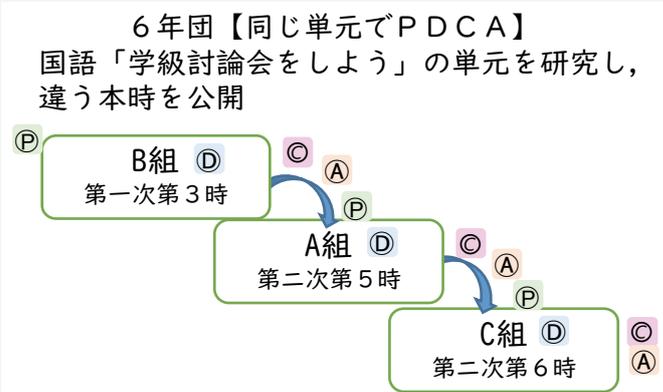
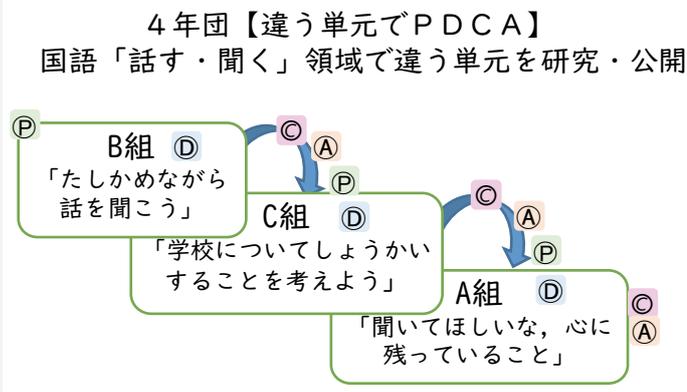
目指す子供像の実現のために校内研究体制を作り、導く!



ワンポイントアップ

PDCAの積み重ねの工夫 ~芳田小学校の実践から~

「目指す子供像」の実現のために、研究授業の単元や本時の設定を各学年で工夫してPDCAを行いました。子供や授業の様子を次の学級の授業に生かすことができました。





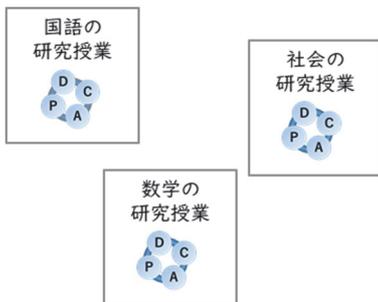
ワンポイントアップ

教科等横断的な視点での研究 ～福田中学校の実践をもとに～

校内で「表現力」を育成することを共有し、研究授業や協議の視点を明確にしています。研究授業で育成した「表現力」を次の研究授業や日々の授業に生かすために、子供の姿から協議を行っています。

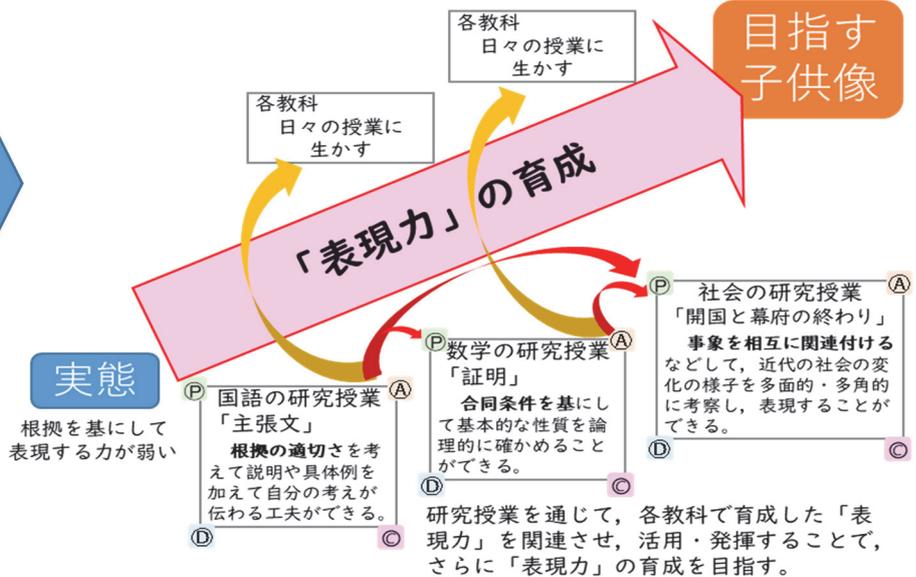
校内研究での協議を
各教科・領域での
資質・能力の育成

(例)



から

教科等横断的な視点での「表現力」の育成へ



ワンポイントアップ

PDCAの積み重ねの工夫 ～指導と評価の一体化「学習指導案」～

指導と評価の一体化を確実に実施するために、学習指導案を次のように作成しましょう。

第○学年○組 ○○科 学習指導案 令和○年○月○日第○校時 指導者○○○○		
1 単元名		
2 単元目標	【知識及び技能】【思考力・判断力・表現力等】【学びに向かう力・人間性等】の三つの資質・能力で示す。	
3 単元の評価規準	【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の三つの観点で示す。	
4 指導と評価の計画	<p>「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」(令和2年3月国立教育政策研究所)を参考にしましょう。</p>	
5 指導上の立場 教材観 児童観		評価規準を学習活動に即して具体化し、評価場面や評価方法を計画する。
指導観 研究主題との関連		
6 本時案	育成した資質・能力を今後どの教科・領域で活用・発揮するかまで想定して示す。	

※学習指導案の様式は、C4th 書庫の教育研究研修センター「教職への期待 第7章」にあります。

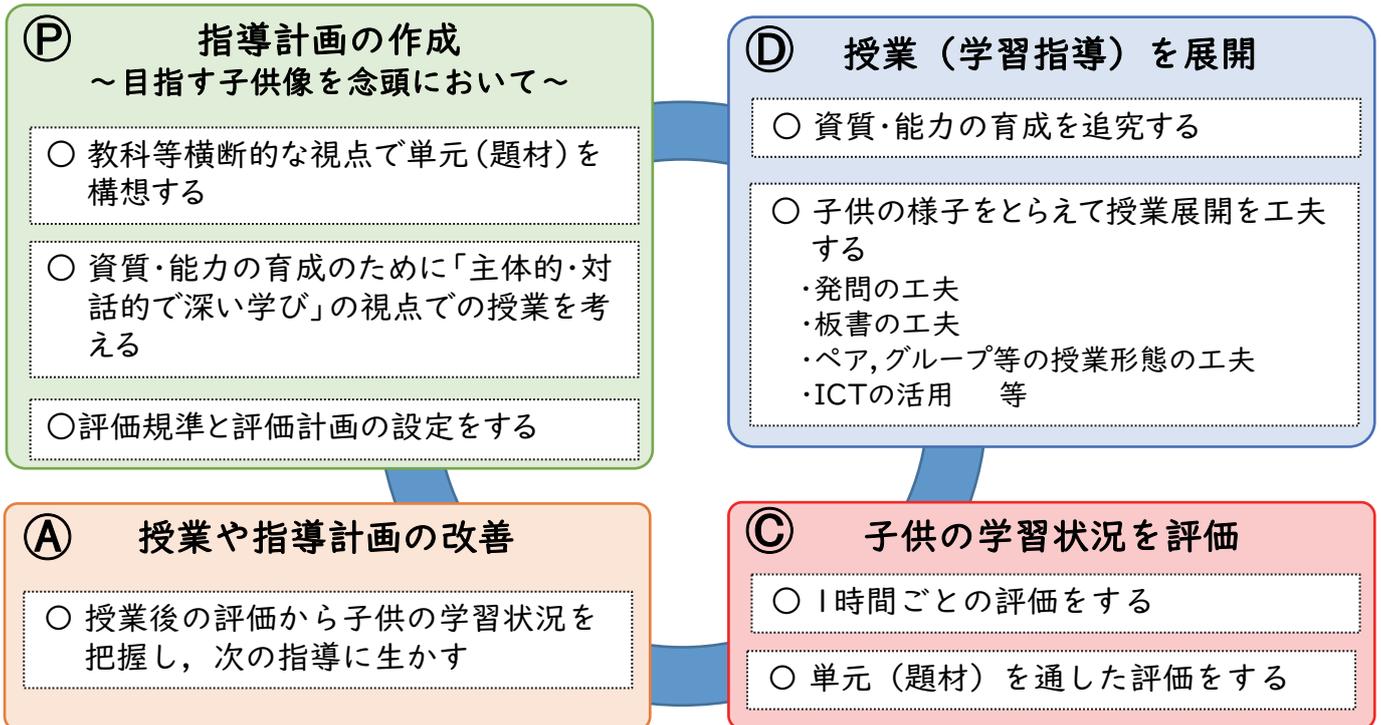


教員は子供の資質・能力の育成の担い手

「カリキュラムを作り、動かし、変えていく」のは、学級や教科を担当している先生一人一人です。



「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹!



ワンポイントアップ

PDCAの積み重ねの工夫 ～指導と評価の一体化「評価計画」～

「通知表のための評価」をするのではなく、「子供の学習意欲の向上や資質・能力の育成のための評価」をすることが大切です。そのためにも、教材研究の段階で評価規準を設定し、単元(題材)を通した評価計画を立てましょう。

評価計画例(小学校第3学年 算数)

(・は指導に生かす評価 ○は記録に残す評価)

時	学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○余りがある場合でも除法を用いてよいことや, 答えの見付け方を具体物や図などを用いて考える。 ○余りがある場合の除法の式の表し方や, 余りなど用語の意味を知る。	・知①(ノート分析)	・思①(活動観察, ノート分析)	・態①(活動観察, ノート分析)
2	○余りと除数の関係を理解する。	・知③(ノート分析)		
3	○等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 ○等分除の場面で, 答えの見付け方を考える。		○思①(活動観察, ノート分析)	
4	○割り切れない場合の除法計算について, 答えの確かめ方を知る。	・知②(ノート分析)		
5	○日常生活の場面に当てはめるときに, 商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。 ・商を+1する場合やしない場合について, それぞれ考える。		・思②(活動観察, ノート分析)	○態①(ノート分析)
7	○学習内容の定着を確認し, 理解を確実にする。(章末問題)	・知①②③(ノート分析)		
8	○学習内容の定着を確認する。(評価テスト)	○知①②③	○思②(ノート分析)	

アとイの授業には、どのような違いがあると思いますか？

	ア	イ
①	教科書や指導書の内容を順番にこなす「教科書を教える」授業	子供が「何を、どのように学び、何ができるようになるか」を考えて、「教科書を使って教える」授業
②	教員だけがねらいを意識した授業	教員はもちろん、子供も本時や単元のねらいや目標などを意識しながら臨む授業
		ねらいに迫る本質的な問いや振り返りのある授業
③	1時間の授業は、意図的・計画的かつ工夫されている「本時主義」の授業	既習事項や今後学ぶ単元等の系統性や他教科等との関連性を考慮し、育成する資質・能力が意識された授業
④	環境教育や食育等の教育課題について、総合的な学習の時間や特別活動等の1時間を使って単発的・イベント的に対応する授業	環境教育や食育等の教育課題について、総合的な学習の時間を核としながら、各教科・領域における関連単元等を見出し、多面的・多角的・総合的にアプローチする授業



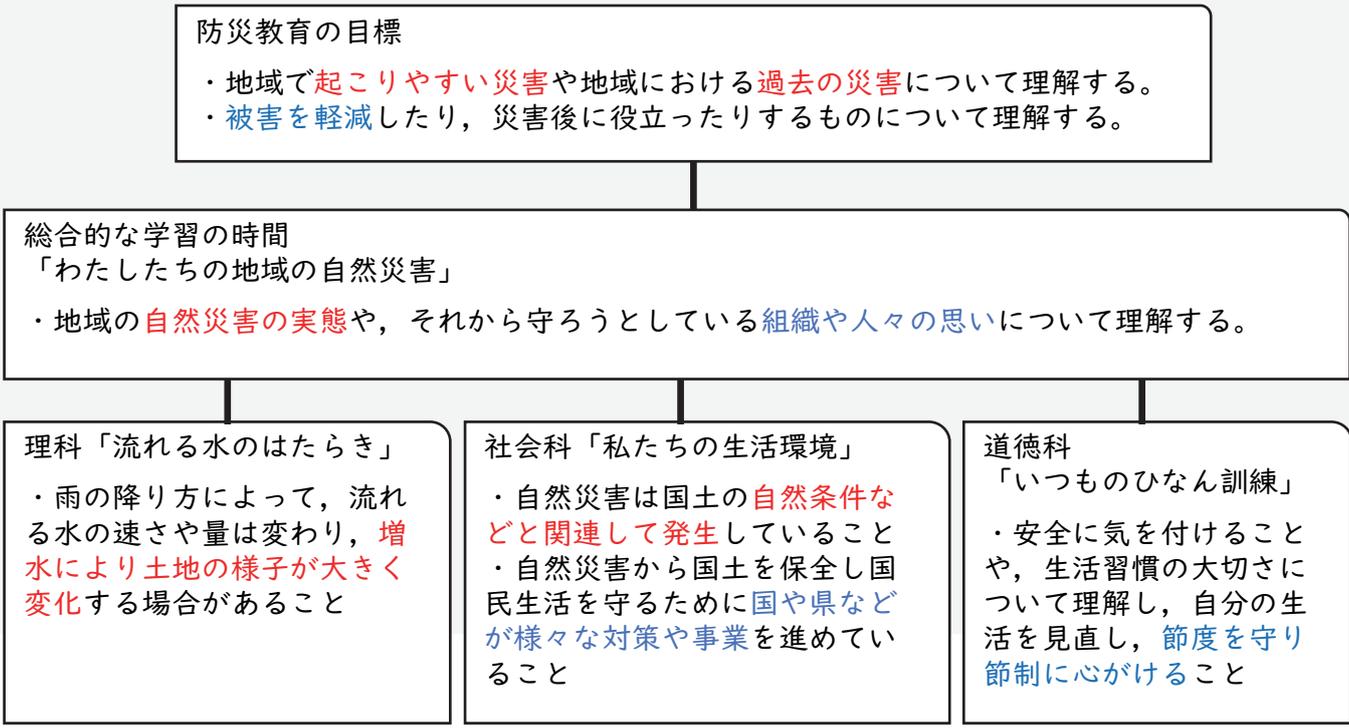
カリキュラム・マネジメントを充実させることで、イのような授業が実現し、子供の資質・能力を育成することができます。



ワンポイントアップ

教科等横断的な視点での授業づくりの工夫

(④のイの例) 防災教育について総合的な学習の時間を核として、理科・社会科・道徳科を【知識及び技能】の育成に焦点を当てて関連させた例



6 研究協力校の実践

PDCA

岡山市立芳田小学校

<研究のポイント>

カリキュラム・マネジメントの充実に最も大切なのは、目指す子供像の共有です。芳田小学校では、児童の実態と課題から低・中・高学年で目指す子供像を設定し、より実態に応じたものにしました。

また、国語科「話す・聞く」領域で育成する資質・能力を他教科等のどこで活用・発揮するか想定して授業づくりに取り組みました。

1 研究主題

ともに学ぶ喜びを感じる子供をめざして
～かかわり合いを大切に、主体的に学ぼうとする子供の育成～

2 研究の方法・内容

<実態と課題>

- 基礎学力の定着に差が大きく、思考力が必要な問題や手間がかかりそうなことはあきらめてしまう面がある。
- 分かりやすく説明（表現）することにも苦手意識をもっている児童が多く、お互いの話を聴き合って考えをつなげたり、交流したことをもとに考えを広げたり深めたりすることができないこともある。



<目指す子供像>

自分の思いや考えをもち、表現する活動を通して、学習したことの良さや充実感を感じ、主体的に学んだり対話的に学んだりする子供



低・中・高学年それぞれの目指す子供像

<低学年>

「友達の話を最後まで聞き、自分の考えと相手の意見を比べて感想をもつことができる子供」

<中学年>

「観点をもって聞き、自分と友達の考えを比べ、その良さに気づいたり自分の考えを変えたりすることができる子供」

<高学年>

「話し合い活動の良さを実感し、課題解決のために進んで話し合い活動を活用しようとする子供」

3 教科等横断的な視点での授業づくり

第4学年では、国語科で培った資質・能力を総合的な学習の時間で活用・発揮することができるようにしています。

国語科「たしかめながら話を聞こう」

○単元で育成する資質・能力

必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや聞きたいことを中心をとらえ、自分の考えをもつことができる。

<授業の工夫>

- ・「低学年におすすめる休み時間の過ごし方」をテーマとした。
- ・おすすめる理由を比較しながら聞くことができるように、話し合うグループ編成の工夫をした。(ワールドカフェ方式)
- ・何を中心に聞くとよいかの確認、メモの取り方、質問の仕方等の聞き方の指導。

<授業後の児童の振り返りより>

- ・メモを取りながら聞くと友達の伝えたいことが分かったし、あとでグループに伝えるときにも役立った。
- ・質問したことで、自分のグループの考えと同じだったことがはっきりした。



総合的な学習の時間

「人にやさしい街づくり」

○本時で活用・発揮する資質・能力

盲導犬についてゲストティーチャーの話を聞いたり質問をしたりする際、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや聞きたいことを中心をとらえ、自分の考えをもつことができる。

<授業の工夫>

- ・国語の授業を振り返ったり、掲示物を見せたりして、学んだことを想起できるようにした。

【活用・発揮する児童の姿】

- ・事前に聞きたいことを整理しようとしていた。
- ・話を聞きながら要点をとらえてメモする児童が増えた。
- ・目的意識をもって聞き、目的に沿った質問ができる児童が増えた。

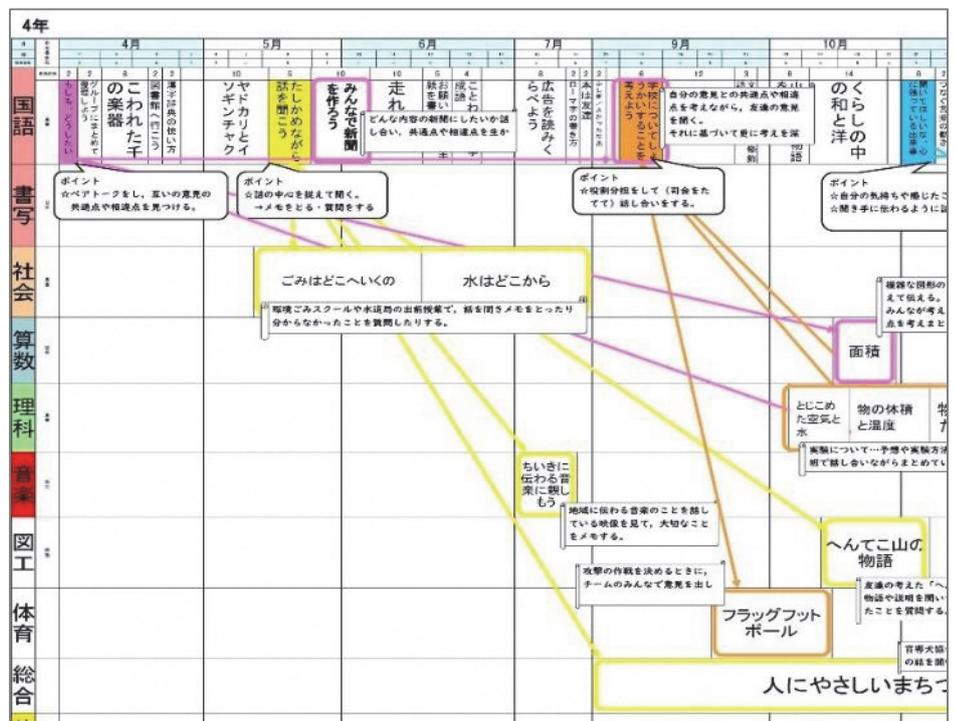


4 単元間、教科等間のつながりを可視化

今年度の研究や普段の授業の実践から、単元配列表に、国語科の「話す・聞く」の領域と他の教科等を線でつなぎ、つながりを可視化しました。

さらに国語科で育成した資質・能力を「ポイント」として示し、他教科等での活用の仕方を明記しました。

これを研究のまとめの一つの資料とし、次年度に活用するとともに、より良いものにしていきます。



7 研究協力校の実践

PDCA

岡山市立福田中学校

<研究のポイント>

目指す子供像を設定し、すべての教職員が同じ授業スタイルで取り組むことで、「表現力」の育成を目指しています。

このことが、教科・領域を超えて公開授業や研究協議に視点をもって参加し、日々の自分の授業に生かすサイクルを作っています。

1 研究主題

学び合いによる学力と表現力の育成
～協同学習の手法を取り入れて～

2 研究の方法・内容

学校教育目標

「豊かな人間性を養い、何事にも主体的に取り組む生徒の育成」

目指す生徒像

「『聴く 伝える つながる』が実現できる、豊かな心を持ち、自立・貢献できる生徒」

研究仮説

「協同学習」の手法を取り入れた授業を実践することで、学び合いを通して、学力と表現力が育成される。

①

- 「協同学習」の理念と実践について研修を進める。
- それぞれの教科・領域における表現力に注目し、教科等の特性を生かしながら授業計画を作る。
- 中学校区の幼稚園、小学校と積極的に連携を図り、協同して研究を進める。

②

- 全教科で「協同学習」の手法を取り入れ「表現力」を育成する授業を実施
- 「協同学習」が生徒に浸透していくための取組を進める。
- すべての教員が授業を公開する。

③

- 研究協議を通して、考えた「表現力」を自分の授業に取り入れる。
- 総合的な学習の時間においても、それぞれの学習活動の中で、表現することを意識した活動を積極的に取り入れる。

④

- 研究協議をする。
 - ・様々な教科における「表現力」について共に考える。
- 全国学力・学習状況調査、岡山市学力アセス、ASSESS、教育に関する総合調査等の結果を分析する。
 - ・「理由を書く」「説明する」といった表現力と関係の深い項目について、丁寧に考察する。

3 教科等横断的な視点での授業づくり（福田中学校版協同学習を通して）

全教科・領域において、自分の言葉で説明、表現できる力、つまり、学習の基盤となる資質・能力の一つ「言語能力」を育成するために、グループ活動で学び合う学習形態をとっています。

(1)全教科・領域での基本的な授業の流れと、4人のグループ活動を1回以上入れることを**全教職員**が共有

<目指す授業>
 ○課題に対して生徒それぞれの考えや思いを出し合いながら問題解決していく。
 ○他者との学び合いを通じて成立する学習

<手立て>
 ○すべての生徒に教科等の資質・能力を育成するために、共有課題を設定する。
 ○グループ活動の充実のために、導入からの課題設定を短時間でを行う。
 ○授業者はつなぎ役と聞き役となる。
 ○グループ活動でのルールの徹底

「表現力」の育成

(2)公開授業研究会の実施による「表現力」の育成に向けた授業づくりと福田中学校版協同学習を共有

第2学年 国語科
 「主張文 推論と対話で考えを広げる」

○単元で育成する資質・能力

- 自分の立場や考えとともに、それを支える事実や事柄を明らかにして、文章の構成を工夫することができる。
- 書いた文章を読み合い、互いの主張や表現の仕方について意見を交流して、自分の考えを広げることができる。



研究協議後の感想

○国語科と数学科における「推論」について、共通点が多いことに気がついた。また、目的と意図に応じた表現の工夫から意見交流をする技能は、数学の授業の中で自分の考えを広げることにも有効であり、活用したい。

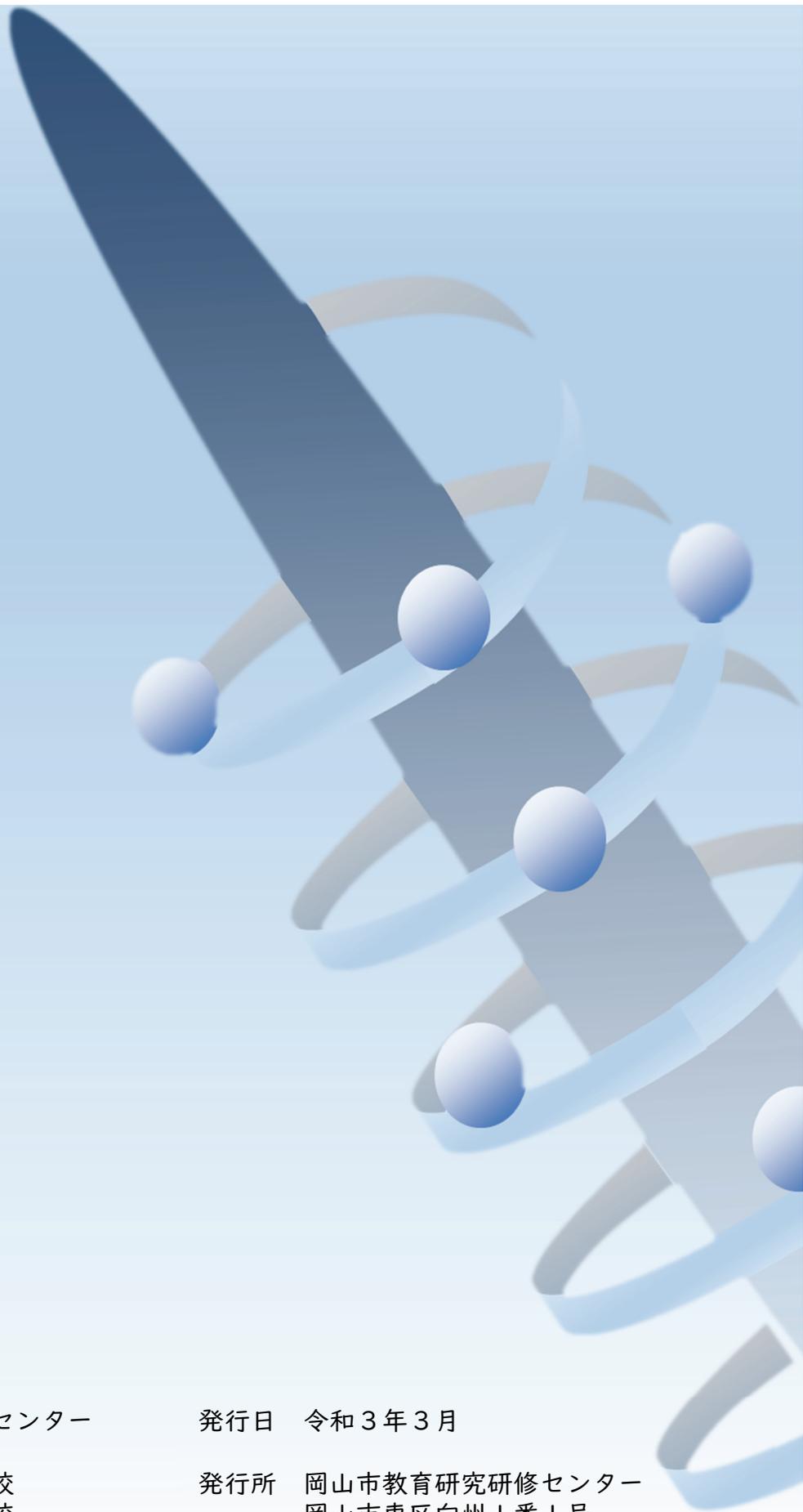
○モノを媒介として導入し、授業の流れをつくる方法は、授業にストーリーをつくる意味で参考になった。



4 総合的な学習の時間と各教科・領域との関連の見直し

総合的な学習の時間の指導計画とともに、各教科・領域との関連についても見直しました。さらに、全教科・領域の単元等を1枚にまとめて作成し、各教科・領域との関連する単元等を線でつなぎました。今後も、関連できるところを加筆・修正していき、充実を目指します。

		令和3年度 年間単元指導計画					
教科 月		4月	5月	6月	7月	8・9月	10月
国語	【読】見えないだけ(1)	【読・書】枕草子(3)	思考のレッスン1 具体と抽象(1)	【読・書】短歌に親しむ(4)	【読】字のない童書(3)	漢字に親しもう3(1)	【読】モアイは語る 球の未来(4)
	【読】アイズプラネット(4)	情報整理のレッスン(1)	【読】多様な方法で情報を集めよう(5)	【読】言葉の力(2)	【読】聞き上手になろう(2)	根拠の跡(1)	【読】モアイは語る 球の未来(4)
書写	読みやすく速く描くための行	筆順の変化	行書に調和する仮名(いろは歌)	行書と仮名の調和	行書を活用しよう		
	地理		地域調査の手法(6)	日本の地域的特色と地域区分(5)	日本の地域的特色と		
社会		近世の日本(23)					
歴史							
数学	式の計算(7)	章末問題(2)	連立方程式の利用(4)	一次関数と方程式(3)	一次関数の利用(4)	平行と合同(10)	
	文字式の利用(3)	連立方程式(7)	章末問題(2)	一次関数とグラフ(11)	章末問題(2)	証明(4)	
理科		【物質】化学変化と原子・分子(30+4)		【生命】生物の体のつくりとはたらき(34)			
総合	○オリエンテーション(ね)	○広島研修に向けて	○平和学習まとめ	○田楽祭に向けて	○田楽祭に向けて	○田楽祭に向けて	○職場体験学習に向
	○平和学習・平和祈念集会	○地域文化についての	○芸術自主活動の計画				
	○大戦の歴史・破壊についての基礎知識						



編集 岡山市教育研究研修センター
研究協力校
岡山市立芳田小学校
岡山市立福田中学校

発行日 令和3年3月

発行所 岡山市教育研究研修センター
岡山市東区向州1番1号
TEL (086) 944-7255